

この物語に登場する人・モノ・場所

モドキ

主人公のモドキは、川越市で里神楽に取り組んでおられる「梅鉢会」の神楽師・白石信人さんが演じています。モドキとは真似をするの意味。神楽の登場人物。身に着けているお面も実際の神楽で使われているものです。

[里神楽梅鉢会](#) [Instagram](#) [Facebook](#)



ヤギ



旅の道連れとして登場するのは、熊谷市のソーシャルファーム「埼玉福興」で飼われている子どものヤギさんです。

撮影現場までの運搬や現場でのお世話は、毛呂山町の「ヤギワールド」が担当してくださいました。

[埼玉福興 \(株\)](#) [X \(Twitter\)](#)

怪談師

物語の中で一行が出会った女性は、本庄市を拠点に怪談師として活躍されている北城椿貴さん。当日は、紅色の和服を纏っていただき、死者と生者をつなぐような存在として登場いただきました。

[怪談師 北城椿貴さん](#)
[Instagram](#) [X\(旧Twitter\)](#)



ロケ地

第2章（風の章）の撮影は、熊谷市葛和田の渡し（赤岩渡船）で行われました。渡しは、埼玉県熊谷市葛和田と群馬県千代田町赤岩を船でつなぐ県道の一部となっており、埼玉県側の岸にある黄色い旗を揚げると、対岸から船がやってきて群馬県に渡ることができます。

上空には、グライダーが飛び交い、埼玉の「風」を感じることができる場所です。

[葛和田の渡し（赤岩渡船）](#)



ザリガニ



第1章（水の章）にも登場したザリガニは、吉川市にある「街のミニ水族館しおや」で展示されているザリガニです。吉川市に生息する川魚のみを収集して展示している珍しい私設のミニ水族館です。

[街のミニ水族館しおや](#)



シカの骨

モドキが受け取ったシカの骨は、秩父郡横瀬町の山奥で鳥獣の適正管理や狩猟の文化を現代につなげる活動に取り組む「カリラボ」からお借りしたものです。

[カリラボ](#) [Instagram](#) [Facebook](#)



埼玉福興のみなさん

物語の最初と最後に登場する方々は、熊谷市のソーシャルファーム「埼玉福興」で農業に従事しておられるみなさんです。ヤギとともに、ご出演いただきました。

[埼玉福興 \(株\)](#) [X \(Twitter\)](#)



身につけているモノ

モドキが履いている**足袋**は、かつて「日本一の足袋のまち」と呼ばれた行田市で足袋作りを続けている「イサミコーポレーション」による「イサミタビ」です。ひとつひとつ丁寧に手作りで作られています。



[\(株\) イサミコーポレーション](#) [Instagram](#) [X \(旧Twitter\)](#)



モドキが羽織っている**半纏**は、八潮市の「相澤染工場」で、伝統的技法によって作られた藍染の半纏です。

[\(有\) 相澤染工場](#)
[Instagram](#) [X \(旧Twitter\)](#)

